

ニュールンベルグ裁判と東京裁判

東京裁判を簡単に述べますと、最初はニュールンベルグでドイツ敗戦後のナチスを裁くためにニュールンベルグ裁判が開かれました。そして、「平和に対する罪」「人道に対する罪」の二つの罪を新たに作り、この二つの罪名でナチスを裁きました。

マッカーサーは日本を占領して、東京裁判を開くことを決めるのですが、この人は法律家ではありませんからこの裁判にどういう罪を持ってくるか分かりません。ですからニュールンベルグ裁判のこの二つの罪をそのまま適用して「東京裁判条例」を作ります。いわゆる「平和に対する罪」「人道に対する罪」で二十八人の日本の指導者たちを裁いたのです。つまり事後法で裁いたのです。文明国の法の鉄則である「法なければ罪なし、法なければ罰なし」という罪刑法定主義を無視して、後から法律を作って前の事件を裁くという無法を敢えて犯した裁判だったのでした。

この二十八人はヒトラーのように独裁政権を作ったのか。二十八人を見てみると、内閣に反対して内閣を潰した人も、内閣で喧嘩して閣内不一致を生じた人もおられます。二十八人の一人である荒木大将はこう言われています。「見回してみると俺に反対したり、背いた奴がいるのに、何でこれが共同謀議なのだ」と。平和に対する罪では「二十八人が共同謀議をして侵略したのだ、共同謀議して各国を占領した」といっています。ところが二十八人は全くバラバラでありまして、二十八人が何で被告になったのか未だに分かりません。総理大臣をやり

陸軍大将でもあった阿部信行は被告でも何でもなく、そうかという一大佐が被告となっています。名前の知れた宣伝価値のある人間を二十八人集めたにすぎませんから、ナチスとは全く違います。昭和三年から昭和二十年の終戦の時までを裁いたのが東京裁判ですが、十七年間に日本の内閣は十六回変わっています。一党独裁ではないのです。共同謀議などできるわけがないのであります。

それでは「人道に対する罪」はどうか。日本軍が何万人、何十万人という人を虐殺した事実もありません。そこでどうしたかという、南京事件というものを作ったのであります。あそこで三十万人殺したというウソを作ったのです。それを最初に作ったのが中国です。中国は日本に負けたから、その復讐として、南京に大量殺戮があったかどうか調べると指令を發します。商工組合から警察、婦人会、青年団、宗教団体等を集めて、日本人が南京で大虐殺したことを訴え出ると宣伝したのですが誰も訴えません。それもその筈です。そんな事実はないからです。そこで中国人独特の「白髮三千文」話を作ったのです。褒美を貰うためにそういう作り話をした人が三、四人いました。「私はどこそで五万七千四百十八人を殺すのを見ました」と。皆さんどうですか。例えば満員の甲子園球場で、ちゃんと座っているその人たちを一の桁数まで正確に数えられますか。しかも戦争の殺しの場面です。五万七千何百何十人を殺したとわかりますか。冗談ではありませんね。まして逃げたり、撃ったり、殺されたり、そういう惨状を何人単位で見たとこの話です。いかに作り話であるか。そのようなでたらめの数を合わせて三十万人としたのです。そして東京裁判では全部で四十二万人と訴えたのです。中国が言ってきたでたらめを、さすがに裁判所もそのまま取り上げず、判決では二十万人以上としました。松井大将は南京事件の関係だけで死刑にされましたが、その松井大将への判決文には十万人以上となっています。この裁判のでたらめさはどうでしょう。同じ裁判で、一方では二十万人殺したと、殺人数を半分減じているのです。要するに日本には「人道に対する罪」はなかったのです。「平和に対する罪」もないのです。

ところで皆さん、こういうことを覚えておいて下さい。日本は侵略したと言いますが、東京裁判ではどうなっているかと言いますと、侵略した先はフィリピンやインドネシアやマレーシアではないのです。侵略したのはアメリカに対する侵略であり、イギリス、オランダに対する侵略なのです。つまりフィリピンの場合、その宗主権はアメリカにあって、そこに攻め込んだのだから、日本はアメリカに対して侵略したのだという判決なのです。

インドネシアはオランダの植民地であり、オランダの軍隊と戦ったのだから、オランダに侵略したということな
のです。マレーシア、シンガポールはイギリスの植民地ですから、イギリスに対して侵略したと。ですから東京
裁判では、日本が侵略したというその侵略の相手は、イギリスであり、アメリカであり、オランダであるのです。